

<全国納税貯蓄組合連合会優秀賞>

税金の「つながり」

福島市立野田中学校

3年 阿部 美空

私の父は、市役所で税金に関わる仕事をしています。父は時々、「なんで税金を納めない人がいるんだろうな。税金が無かったら生活が成り立たないのに。」とため息をつきます。私はこの言葉を聞いてどきりと思いました。税金は自分の周りのどんなことに使われているのか、よく知らなかったからです。そこで私は、身近な税の使いみちについて考えてみました。

小学校に入学したときも、中学校に入学したときも、まず初めに頂いたのは教科書でした。当然のように受け取っていたそれらは、税金によって無償で支給されたものです。たくさんの方が一生懸命働いて払ってくださっている所得税、住民税などのおかげで私達は平等に教育を受けることができます。私はこれを知ったとき、教科書がいつも以上に重々しく感じられました。私達が恩返しできるのは、大人になって社会のために働くことだけだと思います。

また、救急車や消防車を呼んでもお金を払わなくてよいのも、税金のおかげです。私はそれをあたり前だと思っていたので、有料の国もあると知り、とても驚きました。命はお金で買えるものではなく、全員が平等に与えられているものです。だから、お金のせいで生きるチャンスを失ってしまうことは、本当にもったいないと思います。そのような点では、日本は恵まれていると感じました。

しかし、税金を間違っって認識している人もいます。何年か前に、近年あまりなかった50センチメートルくらいの大雪が降りました。お年寄りなどは雪かきができず、家から出られない人もいたそうです。そんな日に出勤した父は、たくさんかかってきた電話の内容

にショックを受けたそうです。それは、

「税金払ってるんだから家の前の雪かきをしてほしい。」

という内容だったと言っていました。確かに税金によって公務員の給料はまかなわれていますが、それを振りかざして何かを要求するのは違うのではないかと思います。税金はみんなが安全に、安心して暮らせるように考えられた、思いやりのあるものではないでしょうか。

税金を納めるのは、自分のお金を失うことだと思っている人もいると思いますが、私はそうではないと思います。ごみの処理や道路をつくること、図書館の本を買うことなど、必ず「形」となって返ってきます。税金を納めることで、誰もが社会の役に立てるのです。

今私がこうして学校で勉強できるのも、大人がたくさん働いて税金を納めているおかげです。だから私も、大人になったら、社会のため、そして日本の未来を担う子供達のために納税できることに誇りをもちたいです。

このようにして次世代へとつながっていく税金に対して、皆さんが良いイメージを抱くことを期待します。